

# 事業の概況

## 平成22年度の経済・金融情勢と事業概況

平成22年度のがわ国経済は、日銀が4年ぶりのゼロ金利政策の復活と5兆円規模の資産買入基金創設などを盛り込んだ金融緩和策(包括緩和策)を決定したことに加え、政府は総額5兆円の追加経済対策を柱とする平成22年度補正予算を成立させたことにより、平成23年の年明け以降、政府の月例経済報告および日銀の金融経済月報ともに上方修正され、日本経済は踊り場を脱しつつありました。

しかし、3月11日に東日本大震災が発生したことで、未曾有の自然災害や原発事故によって被災地域および被災地域以外にも経済活動の停止・停滞が波及し、自動車など生産の減少による輸出の落ち込み、消費マインドの悪化による個人消費の減少などが懸念される状況となりました。

こうした状況の中、当会におきましては、平成22年度は「経営刷新計画」の中間年度として、諸リスク管理を徹底し、安定的な事業運営と財務内容の改善を図ってまいりました。

また、第25回JA全国大会決議を踏まえ、新たに策定したJAバンク中期戦略(平成22～24年度)においては、『「農業と暮らしに貢献し、選ばれ、成長し続けるJAバンク」の実現』を向こう3ヵ年の目標とし、初年度にあたる平成22年度は、「農業メインバンク機能の強化」、「生活メインバンク機能の強化」および「競争力強化に向けた仕組みづくり」を重点実践事項に置き施策を展開しました。

### 主要勘定の動向

#### 【信連貯金】

JA貯金残高が前年比で増加し、期末残高は前年度末比470億円増加の1兆7,284億円となりました。

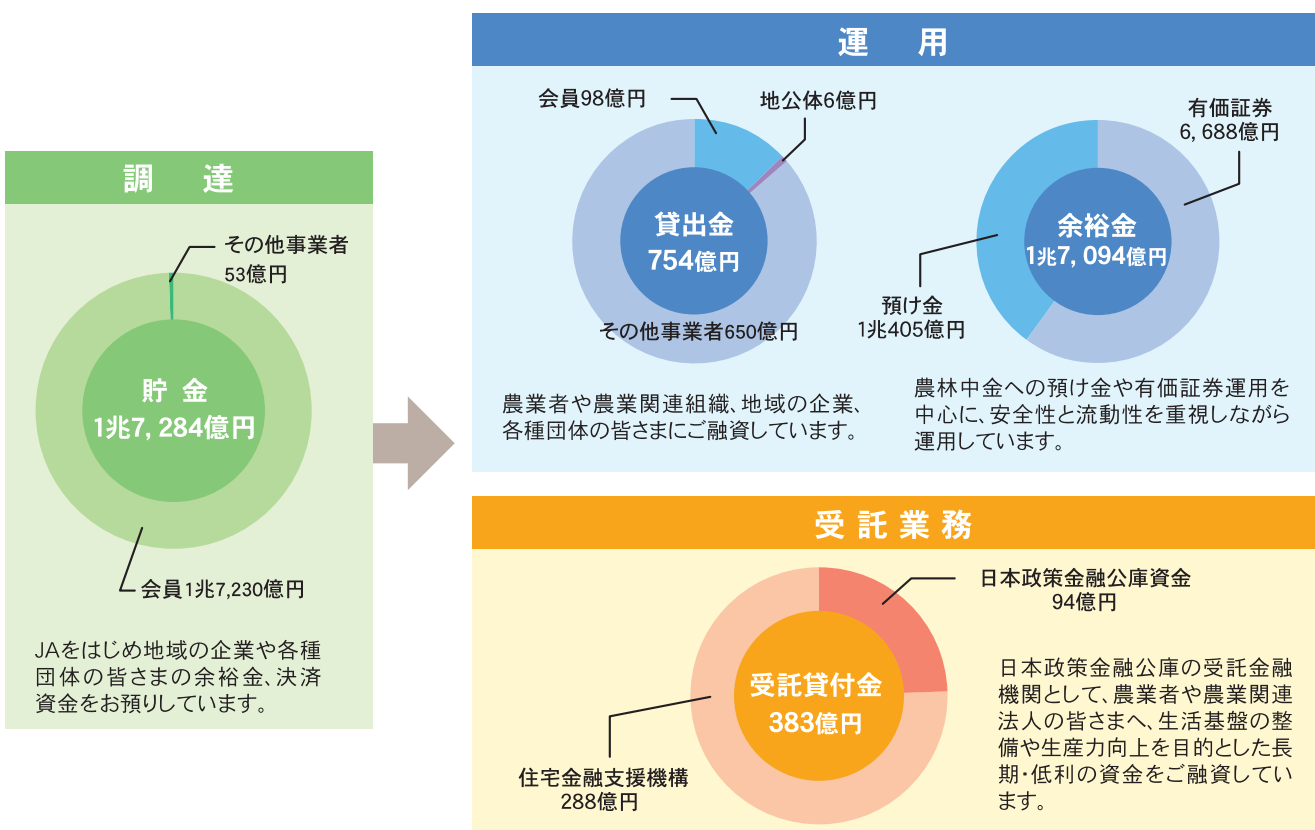
#### 【一般資金融資・受託業務】

新規融資・貸増について伸び悩んだため、期末残高は前年度末比7億円減少の754億円となりました。

#### 【余裕金運用】

有価証券残高は、円債資産の積み上げと、株・外債関係資産の処分・入れ替えを行ったため、期末残高は前年度末比152億円増加の6,688億円となりました。

預け金残高は、JA貯金の増加により、期末残高は前年度末比422億円増加の1兆405億円となりました。



## 収支状況

平成22年度は、3月の震災による市場の混乱もありましたが、利息収入を中心とした堅実な財務運営に努めた結果、経常利益10億円、当期剰余金9億円を確保しています。

## 自己資本の充実の状況

平成22年度末の自己資本比率は、単体ベースで31.38%(前年比△0.32ポイント)となり、引き続き高水準を、維持しています。

なお、当会の自己資本は、会員からの普通出資のほか、後配出資金、回転出資金および劣後特約付借入金により調達しています。

- 普通出資金による資本調達額 401億円
- 後配出資金による資本調達額 401億円
- 回転出資金による資本調達額 8億円
- 期限付劣後特約付借入金による調達額 100億円

### 【収支等の推移】

